

令和7年度 府中市立府中第八小学校

学校経営報告

府中市立府中第八小学校

校長 森 嶋 正 行

誰かのために役に立つ喜びがあふれる学校を目指し、一年間教職員一同チーム力を発揮して誠実さを重視し、創意工夫しながら取り組んで参りました。以下令和7年度の学校経営報告いたします。

【教育目標】

人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す。

◇学び続ける子 主体的に学び、目標を達成する「学びを操縦する力」を育成

◇仲良く助け合う子 かかわりを大切にし、相手を思いやる「人権を大切にする心」を育成

◇たくましい子 体力を高め、健康的な生活習慣を身に付ける「健康管理の実践力」を育成

【目指す学校】「誰かのために役に立つ喜びがあふれる学校～かしこさ、優しさ、逞しさ」

本校は創立69周年を迎え、是政、清水が丘の地域住民に支えられている学校である。地域の宝である児童を保護者、地域の方と共に育む学校を目指す。そのキーワードは「誠実さ」と「誇り」です。本校では、教育目標の実現に向けて、以下の目指す学校を掲げる。

(1) 優しさのあふれる誠実な学校

- ・子供の心に徹して寄り添う温かい学校
- ・子供の良さを認め、かけがえのない一人であることを惜しみなく伝える、励ましの学校
- ・子供の思いと保護者の願い、地域の声に誠実に対応する学校

(2) お互いを尊重し認め合いながら、学び合う切磋琢磨する学校

- ・友達と学び合い、切磋琢磨する中で共に笑顔が輝く学校
- ・自分たちの学級、学校を自分たちで創る喜びを感じる学校
- ・全教職員が創造性を働かせ、信頼と期待を寄せられる活気ある学校

(3) 地域の学校を地域の皆様とともに育てる学校

- ・保護者、地域住民の皆様の御支援と御協力のもと、全教職員がチームで子供を育む学校
- ・伝統を大切にしながら、常に発展を続ける創造的な学校

1 令和7年度の主な教育活動

【1学期】

- 4月7日 入学式
- 4月15日 1年生を迎える会
- 4月19日 府中市教育委員会「防災の日」
- 4月28日 TGG 英語体験(5年)
- 4月30日 消防写生会(2年)
- 5月17日 学校公開日・セーフティ教室
- 5月23日 交通安全教室(1年・2年)
- 5月26日 水泳指導始
- 6月10日から6月13日 わくわく自然教室(5年)
- 6月19日 田植え(5年)
- 7月17日 子供の集い

【2学期】

- 9月20日 学校公開日・道徳授業地区公開講座
- 10月8日 稲刈り(5年)
- 10月30日から11月1日 日光移動教室(6年)

11月14日・15日 展覧会

11月21日 デフリンピック(3年・4年)

11月27日 交通安全教室(全校)

12月6日 土曜授業日・総合防災訓練

12月16日 稲作発表会(5年)

【3学期】

1月17日 学校公開日

1月17日から20日 校内書写展

2月5日 人形劇団ひとみ座

「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」(1年から4年)

1月14日 移杖式

1月19日 WBC オーストラリア代表チーム来校

3月5日 6年生を送る会

3月24日 修了式

3月25日 卒業式

2 令和7年度 重点的な取組

【学校経営の重点】

- 1 校内研究(授業改善への探究)と道徳・特別活動の往還の取り組みを重視した学校経営により、自分のかかわる人やもの、ことをよりよくする為に主体的に考え、行動する児童を育成
- 1 全教職員が児童の実態や教育課題について共通理解を図るためのコミュニケーションを重視。基盤となる学級経営の充実のために、各教科等の学び合う授業と、学級活動や児童会活動、学校行事で目指す児童像を全教職員で共有
- 1 府中第八小学校スクールコミュニティ協議会を核とした、地域の子供を保護者・地域の皆様と協働して育てる学校として、地域との連携を重視

【重点的な取組】

1 主体的な学び・学び合いの学習活動

小中9年間で重視して育成を図る資質・能力「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」を「発見すること」「決定すること」「対話すること」「表現すること」の4つの学びを重視

〈重点〉

◇児童の主体的な学び・学び合いを重視し、「見通し」「振り返り」を常に確認し、「問い」を意識したどの児童にとっても学びのある授業を目指す。

〈取組〉

・講師を招いて7本の研究授業を行い、児童が主体的に学び続ける授業を目指した。教師の問い、児童の問いを意識した授業展開や児童の話し合いを通して課題を発見する取組を行なった。

〈保護者アンケート〉

- ・学校は子供たちが自ら学ぼうとする力を付けさせようとしている。
プラス評価 85.0% マイナス評価 0.4% どちらとも言えない 14.6%
- ・子供は自分から家庭学習に取り組んでいる。
プラス評価 63.0% マイナス評価 2.7% どちらとも言えない 20.5%

〈児童アンケート〉

- ◇学習したこと、これまでに学んだことを関連付けて考えているか。 6月 71.4% → 1月 75.9%
- ◇授業で学んだことが、ほかの学習や自分の生活と繋がっていることを意識して、学習に取り組んでいるか。
6月 67.4% → 1月 73.9%
- ◆できないことや分からないことがあった時、途中であきらめずに最後まで学習に取り組んでいるか。
6月 86.9% → 1月 82.3%
- ◆どうすれば問題を解決できるか自分で学び方を考えたり、工夫したり、良い方法を考えたりしながら学習に取り組んでいるか。
6月 56.4% → 1月 55.4%

〈検証分析〉

- ・91%の児童が「学ぶことが楽しい、面白い」と感じ、さらに83%の児童が「問題や疑問をもって学習に取り組んでいる」と回答している。また、既習事項と関連させたり、自分の生活と繋げて考えたりしている児童が増えている。しかし、諦めずに最後まで取り組んだり、自分で考えたり、工夫したりすることが課題である。
- ・問いを意識することや自分で学び方を考えるなどの取り組みを継続し、家庭学習、自主学習に取り組めるようにしていく必要がある。

〈重点〉

◇基本を意識する授業や教室環境のユニバーサル化を図ることで、児童が授業の課題に集中して取り組んだり、友達と学び合ったりする授業を目指す。

〈取組〉

- ・授業の始めと終わりのあいさつを意識する。チャイムと同時に始めチャイムの前に終わる。
- ・学び合いを大切にするための『返事の「はい」』『立って』発言』『語尾を意識させる「です」』

・整理整頓、教室掲示の工夫、教室の黒板、ホワイトボードの効果的な活用

〈検証分析〉

- ・本校の教室の特徴である前後のホワイトボードを活用した授業展開が多くの教室で行われている。大型モニターと合わせてダイナミックな授業展開を今後も目指していきたい。
- ・教師が授業の始めと終わりを意識した計画的な授業、語尾を意識した発言の「です。」「ます。」や言葉遣いを一層意識した授業を目指していく。

〈重点〉

◇創造性の育成や生涯学習等を踏まえ、朝読書や読書旬間を通して読書に取り組む児童を育成する。

〈取組〉

- ・全学年で読書記録を活用した読書活動を推進し、朝読書は児童と教員が共に読書する時間とする。
- ・各学年が読書目標を設定し、達成した児童には読書目標達成賞を贈る。

〈児童アンケート〉

- ・読書に取り組んでいる(3年生から6年生)
　　そう思う・ややそう思う児童 65.5%　あまりそう思わない・思わない 34.5%
- ・本を読むことは楽しい(1年生・2年生)
　　そう思う 81%　　そう思わない 3.5%　　どちらでもない 15.5%

〈保護者アンケート〉

- ・子供は読書に取り組んでいる。
　　プラス評価 48.5%　　マイナス評価 24.3%　　どちらとも言えない 27.2%

〈検証分析〉

- ・読書目標と達成賞を贈ることで意欲づけになっている。来年度さらに電子図書館の活用や積極的な読み聞かせ、集中した朝読書、読書旬間の取り組みを強化していく。

2 特別活動・道徳科の充実 ～なすことによって学ぶ

育成すべき資質・能力の重要な視点として、鼓笛活動を柱にした「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の特別活動と各教科等の往還的な指導を意識した教育活動に取り組む。また、高学年(特に6年生)の姿に憧れを感じる声掛けや取組を通して、誰かのために役に立つ喜びを感じる活動を重視

〈重点〉

◇6年生の鼓笛活動で育成する資質・能力を小学校6年間で育成する資質・能力と位置付け育成する。

〈取組〉

- ・運動会表現活動での全児童、保護者、地域住民へのドリル演奏の披露
- ・5年生との師匠と弟子の引き継ぎの取組
- ・移杖式での6年生から5年生への移杖と演奏

〈重点〉

◇1年生から6年生の異学年で組織するたてわり班活動を通して、先輩を敬い、後輩を思いやる関係の中で思いやりの心や人間関係形成力を育成する。

〈取組〉

- ・たてわり班集会やたてわり班遊び等の活動時間の確保
- ・6年生を中心に遊びなどの内容を班で話し合ったり、協力し合ったりしながら楽しい時間を創造

〈重点〉

◇自分たちの学級をよくするための学級目標を決め、学級会や学級集会、運動会等の学校行事で協力して創り上げる経験を通して、主体的にもの・ことにかかわる児童を育成する。

〈取組〉

- ・児童の話し合い活動を重視する学級会を要に、1、2年生は当番活動、中高学年は係活動を積極的に取り組ませる。

・代表委員会、各委員会での活動を創造的に取り組める声掛けを重視する。

〈保護者アンケート〉

・稲作活動、鼓笛活動などの特色ある教育活動や宿泊学習、運動会、展覧会などの学校行事が充実している。
プラス評価 97.7% どちらとも言えない 2.3%

〈検証分析〉

・みんなが仲良く楽しい学級にしたい。みんなが楽しい学校にしたい。と児童が主体的、創造的に活動するために、学級会や学級活動を学校生活の要にする取り組みに一層力を入れていく必要がある。また、児童がやってみようと思う声掛けをさらに工夫していきたい。
・来年度創立70周年の佳節を迎える。児童が自分たちの学校に一層誇りに思える一年にするために、創立70周年を児童が主体的に関われる工夫をしていく。

3 生活指導・特別支援校内委員会・いじめ対策委員会(運営委員会)を核に組織的な取組

児童が自分だけでなく、友達も後輩もみんなが楽しく安心して学校生活が過ごせる学校にするために、児童が自分や自分たちで課題を創造的に解決する力を育成する。児童に寄り添い、見守り支援する組織的な取り組みを強化する。

〈重点〉

◇いつでも、どこでも、誰とでもあいさつのできる子供を育てる。

〈取組〉

・特別活動部によるたてわり班でのあいさつ運動、学年ごとに実施したあいさつ運動

〈児童アンケート〉

・あいさつを自分からしていますか。 いつも自分から 27.2% だいたい自分から 48.8%
あんまりできていない 21.2% 自分からはできていない 2.9%

〈検証分析〉

・あいさつは人間関係を大切にする第一歩になる。学校全体として積極的に自分からあいさつできるように、児童会活動や学級活動で考える機会やあいさつ運動などの実践の場をリンクさせ定着させていきたい。

〈重点〉

◇いじめに教師の感度を良くし、いじめが起きない風土を創るとともに、いじめ対策委員会を核に組織的に早期発見、早期解決を図る。また短期、中長期に複数の目で見守る体制を強化する。

〈取組〉

・どんな些細なことでも、まずはいじめの視点でいじめ対策委員会に報告し、対応策を検討
・報告、連絡をスピード感をもって行うことを重視
・朝 8 時 15 分担任は教室で、専科教員や支援員は昇降口で児童を迎える。

〈児童アンケート〉

・先生は困った時、話を聞いて受け止めてくれますか。
よく受け止めてくれる 58.5% ほとんど受け止めてくれる 34.0%
あまり受け止めてくれない 5.7% 受け止めてくれない 1.7%

〈保護者アンケート〉

・学校は児童の声に耳を傾け、しっかりと受け止めようとしている。
プラス評価 89.8% マイナス評価 0.4% どちらとも言えない 9.8%

〈重点〉

◇特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会を活性化し、関係機関と連携して、配慮の必要な児童や不登校の児童への支援を的確に、丁寧に行う。

〈取組〉

・校内委員会での児童の実態の把握と共有化
・毎月の心の健康観察や6月11月のふれあい月間の取組

- ・特別支援教室巡回教員との連携の強化
- ・サポートルームに支援員を配置し、細やかな支援に繋げる。
- ・巡回相談やスクールソーシャルワーカー、みらい、ヤングケアラーワークスとの連携
- ・不登校児童保護者を対象にした懇親会の開催

〈児童アンケート〉

- ・学校に行くのが楽しい。

とても楽しい	40.0%	楽しい	47.0%
あまり楽しくない	10.7%	楽しくない	2.3%

〈保護者アンケート〉

- ・子供は毎日楽しく学校に通っている。

プラス評価	89.8%	マイナス評価	3.6%	どちらとも言えない	6.7%
-------	-------	--------	------	-----------	------

〈検証分析〉

- ・児童にとって学校に居場所があり、落ち着く場所であるために、児童の小さな声にしっかりと耳を傾け、気持ちに寄り添う対応を一層心して取り組む必要があると感じている。関係機関とも連携し、より誠実に取り組んでいく。

4 保護者・地域と連携した取組

スクールコミュニティ協議会を核として、学校・家庭・地域が協働して、児童の教育活動の充実、地域での健全育成、地域の活性化を推進

〈重点〉

- ◇地域の協力のもと、学校田での稲作体験(5年生)、学校園での野菜栽培(3年生)などを行い、日本の伝統文化である稲作のよさや栽培の喜びについて学ぶ。

〈取組〉

- ・農家の方の稲作体験指導を保護者の方のお手伝いを得ながら、苗取り、田植え、稲刈り、脱穀の稲作の作業を体験
- ・全校児童と農家の方に、稲作発表会を開催し、稲作について体験し探究したことを発表
- ・3年生が大根を育て収穫した。関連させた探究活動としてフードロスフェスティバルを開催し、保護者や地域の方に発表

〈保護者アンケート〉

- ・稲作活動、鼓笛活動などの特色ある教育活動や宿泊学習、運動会、展覧会などの学校行事が充実している。

プラス評価	97.7%	マイナス評価	0%	どちらとも言えない	2.3%
-------	-------	--------	----	-----------	------

〈検証分析〉

- ・地域の方や保護者との連携が伝統となっている。本校の特色ある教育に位置付けている。今後も継続していく。稲作や食物について体験し調べる中で、日本の伝統文化や食料問題について視野を広げる活動を今後も大事にしたい。

〈重点〉

- ◇府中九中や幼稚園、保育園との交流を通して、幼保小中の連携を重視

〈取組〉

- ・府中第九中学校と府中第八小学校の教員同士の授業参観や協議を年3回開催
- ・地域の幼稚園や保育園の園児への学校案内や共に遊ぶ交流活動の実施
- ・毎週月曜日の「わがまち支えあいの会」の方の児童の登下校の見守り
- ・青少年対策第九地区委員会の活動(凧あげ、見守り等)を通して、地域の児童を地域とともに育てる。

〈検証分析〉

- ・教員同士、児童同士の交流は大変重要な機会となっている。府中九中との連携では、日ごろから様々な情報交換をしている。幼稚園、保育園とは卒園前の園児が1年生と交流し、小学校への入学を楽しみに思うとともに、1年生が入学してくる後輩と関わり、2年生になる意欲付けになっている。

5 危機管理体制の充実と府中第八小学校の教育力の強化

児童の安全は教育活動の基盤です。校内の安全、校外の安全について、安心して児童が学校生活を過ごすことができるように点検したり、見直したりすることを重視

〈重点〉

◇交通事故を絶対に起こさない、起こさせない指導の徹底

〈取組〉

- ・府中市、府中警察、PTA と連携した通学路点検の実施
- ・交通安全教室(1年生、2年生、3年生)
- ・全校を対象に交通安全教室を開催し、府中警察の方の講話
- ・自転車に乗る際のヘルメットの着用を繰り返し徹底
- ・交通安全ポスターコンクールなどの応募の積極的に声掛け

〈検証分析〉

・重大事故が発生した。2年連続しての重大事故である。繰り返し交通事故を起こさない指導はしてきたが、事故発生を契機に、ヘルメットの着用など具体的に指導を徹底している。通学路の安全なコースや歩き方について、点検や指導を徹底していく。

〈重点〉

◇府中市総合防災訓練を実施し、災害時の地域の安全拠点である学校の防災準備のスタートとする。

〈取組〉

- ・12月6日府中市総合防災訓練の実施し、地域住民と共に全校児童が訓練に参加
- ・府中八小避難所運営委員会を立ち上げた。委員長、副委員長と共に参加自治体等も確定した。

〈検証分析〉

・地震災害を基本とし避難所開設に際し、府中八小を避難所とする住民が所属する自治会の中で参加を希望する自治会を中心に発足した。学校と地域住民、保護者が連携して地域の安全を守る意識を醸成していきたい。

〈重点〉

◇効率的な学校運営を目指し、教育活動の重点化を図る。

〈取組〉

- ・学年で学年の児童を育成する。学年主任を中心とした学年経営の充実
- ・学年のルールの一貫化(学習面、生活面)
- ・児童に寄り添った児童理解(「朝・昼・放課後は児童と共にある。」)による、温かな人間関係の構築
- ・担任と専科教員の連携を強化し、協働して児童の教育に取り組む。
- ・教員と事務主事、用務主事等の全教職員の連携
- ・限られた学校予算を有効に児童の教育に活用するため、事務室との連携を重視する。
- ・新校舎竣工から3年目になる。新校舎の施設のよさを生かした教育活動をこれまでの活用状況を踏まえ、発展的に検証する。

〈検証分析〉

・学年を核として教育活動に取り組んできた。学年主任を中心に担任同士が連携して教育活動に取り組むことができた。専科教員も意識して各学年に関わっている。また経営支援部を設置し、事務、用務と教員が教育環境の整備に取り組むことができている。校内掲示板等の整備も順調に進んでいる。来年度、新校舎のコンセプトや良さを生かし、児童にとって最高の脅威浮く環境を創造するために、教職員が協働して教育活動に取り組みたい。

・来年度は創立70周年のお祝いの年である。児童の主体的な学び、活動を主眼に、保護者、地域住民、卒業生と連携して、私の学校、私の住む町をみんなが誇りに思う一年にしたい。